

第5・6回
(2012.11.05, 11.12)

目録情報とその利用法

川崎良孝教授 (教育学研究科)

第5回：講義

場 所：吉田南総合館 共東31

出 席 者：36名

配布資料：川崎先生講義資料(A3 プリント両面1枚) + 資料1,2(各1部) + 『Let's Training!』, 宿題(A4 各1枚)

《前半》

○川崎先生による講義 ～ 図書の並べ方・探し方 (目録) の歴史 ～ (10:30～11:30)

Fixed Location 本のある場所は固定されており動かない	18世紀	①大きさ→②受入順で並べる (配架) = 同じ主題の本がバラバラに置かれる 探す手立ては冊子目録：大きさごとに著者名順 あるいは 著者名順 = 著者が分からないと探せない 本のある場所は “書架番号—大きさ・棚番号—並び順” で表現
	～1860s頃	⇒主題で並べる方が便利! ①主題→②大きさ→③受入順に配架 / 目録は主題ごとに著者名順 あるいは 著者名順 本のある場所は、“主題—書架番号—大きさ・棚番号—並び順” で表現
	1858	ボストン市立図書館新館 開館：①主題→②大きさ→③受入順で配架 “ decimal system ”：1つのアルコブ (alcove) の中に、10段の書架が10架 → それぞれに十進数の数字を付与して本の所在を表現 / 目録は基本的に著者名順 (参考) ウォルター・ホワイトヒル, ボストン市立図書館100年史 栄光 挫折, 再生, 川崎良孝訳 日本図書館協会, 2011, p.73-74, 350-353. 川崎良孝解説・訳 ボストン市立図書館よ、いかにして生まれたか: 京大大学図書館情報学研究会, 1999, p.87-88, 123-136.
	問題点	ある大きさ・ある学問分野の本が急増すると、固定書架では対応しきれない。
Movable Location (Relative Location) 本のある場所は移動可能 主題ごとにまとめて配架	1876	メルヴィル・デューイ (Melvil Dewey, 1851-1931) の DC (Decimal Classification) = 十進分類法 ⇒ 普及・定着 書架ではなく資料を主題で分類し、配架 / 冊子目録からカード目録へ ☞ コンセプトの大きな変化! ※1890年以降、図書が増加したことも大きな要因。
	20世紀	SD (Subject Departmentalization) = 主題別部門制 / 主題別閲覧室制度 主題別に部門が分けられ、それぞれの部屋・書庫に、専門職員、蔵書、目録を配する → 「図書館全体としてどんな本があるか？」を示す全館目録 = 総合目録 (Union Catalog) が登場
	1960s頃～	分類・目録作業の集中化 (例) 名古屋市図書館 (中央館が分館の目録も作成)、OCLC (世界で集中化の流れが拡大)

* 京都大学における目録の変遷 *

～ 1990 各学部図書館で目録作成。附属図書館に総合目録 (附属図書館に目録室) が配置されていた。

1990～ 各図書館でオンライン目録を作成、各図書館内からコンピューターで検索できるシステムに移行。

1998～ OPACが Web フロント化、図書館外からも検索可能に。

→ 現在では、例えば大学図書館の総合目録といった、全体的な OPAC が多数あり、世界中の図書が検索可能に。

図書は国際的広がりを持っており、ISBN (国際標準図書番号) によって、同じタイトルや同じ著者でも同定可能。

《後半》

○図書館員の講義 (11:30～11:50 担当：山上)

次週の演習に向けて、まず参考文献の役割、記述例や論文の構成を解説し、また書誌事項を分解・解説することで、その構造に対する理解を深めてもらった。

KULINE 検索が図書雑誌の「タイトル」からの検索であることを念頭に、書誌事項を分解して各要素を解説。図書雑誌別に、オンライン目録の記述・見方 (所蔵情報/書誌情報) の理解に徹した解説となった。具体的には、所蔵館・配置場所・請求記号・状態 (貸出中) / 電子ジャーナル・電子ブックの有無 / シリーズ名 / CiNi・KURENAI で本文まで閲覧できる例 / 書誌事項から変遷誌の特定など。講義には資料1と PowerPoint を使用。

○『Let's Training!』 解答 (11:50～11:53)

次週の演習に向け、書誌事項の記述に慣れてもらうために10種類のパターンを用意し、KULINE 検索で必要な図書/雑誌のタイトルを判別、チェックしてもらう。

○『Let's Training!』 解答解説 (11:53～12:00 担当：佐々木)

10種類全パターンにおいて、書誌情報の分解、各記述の説明を行った。解答用紙は要提出 (ただし評価の対象外)。

(担当：河野佳子)

第6回：演習

場 所：学術情報メディアセンター南館 203

出席者：33名

配布資料：資料3（1部）

演習問題（問題用紙・解答用紙：A4 プリント 1枚ずつ）

《前半》

○図書館員による宿題解説（10:30-11:00 担当：河野）

資料 2,3、PowerPoint を使い宿題の解答方法や検索のポイントを説明することを通して、学内・学外所蔵資料の探し方、前方一致・完全一致の検索方法の解説を行った。また、京都大学の図書館の規模を説明し、なぜ「所蔵館」「配置場所」「請求記号」が必要なのかを解説した。その他にも NCID の重要性を他の図書館からの資料の取り寄せの観点から説明した。

《後半》

○演習問題の解答（11:00-11:45）

問 1 から問 8 では参考文献形式で書かれた書誌情報を基に、資料の所蔵館、配置場所、請求記号、電子ブック・電子ジャーナルの有無等を KULINE で検索してもらった。検索する資料に応じて完全一致・前方一致検索や資料種別の絞り込み等が必要であり、学外所蔵資料については「他大学(NII)：同一書誌検索」「他大学検索」からのリンクにより、KULINE 経由での検索を行うことになるなど、様々な場面を想定した問題構成になっている。

問 9 以降は他機関の検索システムにも慣れてもらうため、京都府図書館総合目録ネットワーク、Webcat-Plus、World-Cat での検索が前提となる問題を設定した。

1-7：KULINE 検索、KULINE 経由での NACSIS-Webcat 検索

8：KULINE（学位論文）検索

9：Webcat-Plus で検索し、その結果得た書誌の所蔵を京都府図書館総合目録ネットワークで検索

10：World-Cat で検索し、その結果得た書誌の Amazon.com での最安値を検索

○演習問題の解説（11:45-12:00 担当：佐々木）

KULINE で検索をする問 1 から問 8 の問題について、参考文献形式で書かれた書誌情報を要素に分解し、検索キーワードとなる書名、雑誌名を見分け、検索する過程を PowerPoint を使って解説した。また完全一致・前方一致検索や AND 検索、版による書誌の識別、資料種別による絞り込み検索等、検索のポイントになる点についても解説を行った。

（担当：山上朋宏）